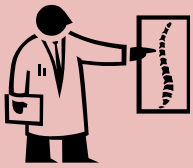


# 伊藤外科ニュース



## 100号

2012.11 発行

### 秋から冬へ

最近は一雨ごとに日に日に気温が下がり、いよいよ紅葉の季節となりました。今年は夏がとて暑かったので、見事な紅葉が楽しめる事を期待しています。

外来では、風邪の患者さんが増えました。同時に、インフルエンザのワクチン接種のためにいらっしゃる方も多くなり、ついこの間までの冷房からいよいよ暖房へ空調を変更し冬の準備が始まりました。



ところで、私が医者になった昭和 50 年代には、冬になると胃潰瘍の患者さんが増えました。

患者さんの潰瘍が、寒さ、年末年始の仕事の忙しさ、忘年会前後の暴飲暴食などで悪化したと考えられ、吐血したり、潰瘍が深くなり胃に穴が開き腹膜炎となったりして病院に運ばれてきたものでした。

今のように素晴らしい抗潰瘍薬や内視鏡による止血術がありませんから胃切除手術を行わなければ救命できない事が度々でした。

我々新人の医師の早朝の仕事は、患者さんの胃液を鼻からチューブを入れ採取し分析する事でした。私が長年勤務していた医局には胃液の膨大なデータが保存され研究されていました。

当時、潰瘍を起こす主犯は、胃液、胃酸過多と考えられていたからでした。

しかし、1982 年にピロリ菌が分離培養されてから胃炎や潰瘍に関する考え方は一変し、これらの病気の主犯は胃酸からピロリ菌へと変わりました。

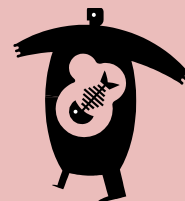
学会でも話題はピロリ菌のことばかりでした。

この細菌は、強酸性の胃の粘膜に付着し粘膜を痛め、慢性胃炎を起こし発ガンしやすい状態を作っているようです。また、ピロリ菌は、幼少期に口移しで感染し大人では感染する事は殆ど無い不思議な細菌です。40 歳以上の方の感染率は 7 割程度と高く、この事実が日本人に胃ガンが多い要因とも考えられています。

しかし、30 歳以下の方の感染率は低く、いずれ日本人の胃ガンは激減すると推測されています。慢性胃炎や潰瘍、さらに発ガンの契機となるピロリ菌感染症は、除菌療法と言って内服治療によって治療する事がある程度可能です。

現状では、慢性胃炎のみでは保険治療ができませんが、いずれ保険治療が認められる事と思います。その際には、皆さんに報告いたします。

今年も、猛暑からいきなり陽の暖かさがありがたい晩秋になってしまいました。気候の変化に身体が順応できず体調を崩す方もいらっしやいます。健康管理に留意して冬を迎えましょう。



伊藤外科 HP <http://www11.ocn.ne.jp/~itoh-hp>

(バックナンバーは HP にて公開中です)

# 三弓先生の本棚 27



番外——旅編

## 国生みの島探訪

先月号に引き続き、旅の話。仕事で淡路島に行ってきた。ご存知の方もいると思うが、ここは日本で最初にできた島である——といっても、『古事記』や『日本書紀』の神代の話だが。

「天地初めて発（おこ）りし時」（つまり、天地開闢）で始まる『古事記』。最初の神の登場から何番目かに成った神が、かの有名なイザナギ命とイザナギ命である。この二柱の神は、「まだ漂っているだけの国（地）を固め成せ」という命を受けて、国生みをする。少々の失敗もがあったものの、最初に無事生まれたのが淡路島、というわけだ。

島の中部、淡路市多賀には淡路の国の一宮「伊弉諾神宮」がある。淡路島は、国生み・神生みを終えたイザナギ命が余生を過ごしたところともいわれている（滋賀県が多賀という説もある）。伊弉諾神宮はイザナギ命の幽宮（かくりのみや）、御陵跡に建てられたとされている。

境内にちょっと目を引くモニュメントがあった。日之少宮とも称される伊弉諾神宮を中心とする太陽の運行を表すモニュメントだという。伊弉諾神宮から見た夏至、冬至などの日没が、出雲大社・高千穂神社など神話にゆかりの深い神社の方向になっている、などの説明書きがされている。さらに、伊弉諾神宮・藤原京・伊勢神宮の内宮が同じく北緯 34 度 27 分 23 秒であることが強調されていた。うーん、確かに古代ロマンをかき立てる話ではある。

「太陽の道」というのをご存知だろうか。三重県の伊勢斎宮跡、奈良の室生寺・長谷寺・三輪山・箸墓古墳などが同じく北緯 34 度 32 分の線上にあることをいうらしい。淡路島にもこの北緯に 2 つの神社がある。東海岸の伊勢久留麻神社と、東西の中央を走る小高い山の中腹にある石上（いわがみ）神社だ。石上神社は舟木という小さな集落のなかにひっそりとあった。小さな鳥居の先は今も女人禁制。だが、脇道がついていて、そちらから木が生い茂る鳥居の奥を眺めることができる。そこにあったのは、お社ではなく、石舞台古墳のような巨岩郡。その風景はまさに、太古の神祭りを想わせる風情があった。

神話だけでなく、律令の時代にも重要なポジションであった淡路島には、神社が 360 以上あるという。歩きたいところは山ほどあるが、なにしろ今回は自由時間が 1 日しかない。神社をいくつかまわるより、太古から変わらないであろう「鳴門の渦潮」を見に、クルーズ船が発着する島の最南端・福良港へ向かった。渦潮の発生率が高い満潮時に合わせて出港。鳴門海峡に船が停泊すると、にわか水面が波立ってきた。「おっ、これは期待できるか！」と思ったが……、渦は巻きました、確かに。でも、正直、期待したほどでは……。実はこの日は中潮。やはり大潮の日がいいらしい。土地の人によると、「渦が 15 メートルも超えれば、そりゃ、迫力だよ～」とのこと。かつては渦に舟が巻き込まれて、沈没することもよくあったそうだ。

以前、三弓が「徳島の大塚国際美術館は一見の価値あり」と言っていた。調べていけば、鳴門海峡は目と鼻の先。次回は大潮の日に徳島側から鳴門海峡を越えてみよう。

（一弓）